

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774201798		
法人名	社会福祉法人 親和会		
事業所名	グループホーム末広		
所在地	大阪府茨木市庄2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらし」という理念の下、入居者様と職員と一緒に調理、洗濯、掃除などを行うことにより、職員と対等な立場で一緒に生活を送っている。その他、日常の中で近隣の散歩や買い物などに出かけることで外部の空気に触れる機会を多く持ち、さらに歩く行為により筋力の向上を兼ねた生活リハビリにもなっている。ホーム内で、利用者様それぞれに応じた役割を持って生活を送っていただくことで、入居者様がホームで生活をする意義を自覚出来るように、さらにそのことで結果として認知症の進行の緩和にもつながっている。また、地域の祭りなどの行事に参加することにより、地域住民との交流を深め、連携を図っている。年に2回、春と秋には、遠出の外出を入居者様と企画して、職員とご家族様と一緒に出かけをして、交流等を深めるようにしている点などが当事業所の特徴である。ホーム内で週2回、希望される入居者様に対して学習療法を実施して認知症の進行の緩和にもつなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業母体の「社会福祉法人 親和会」は昭和47年高度経済成長期の頃、「社会福祉法人」の認可を得て、地域に保育園を開設した。その後、高齢化社会に向けてデイサービスセンター、訪問介護、ケアプランセンターなど地域に密着した福祉事業を次々と展開し、平成16年9月1日に「グループホーム末広」を開設した。ホームの建物は昔を思い出してもらい、昔の風情を残したホームを造った。また想定外の事故への対応が出来るように建物の全ガラスにはガラスが飛び散らないように飛散防止フィルムを貼り、吹き抜けになっているリビングのガラスはアクリル板へ替え、車椅子の収納スペースの工夫、スプリングラーの誤作動時の手動装置の設置をするなど、常に利用者への安全、安心を優先して「大家族・ゆっくり・一緒に・楽しいくらし」を実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらしを理念に掲げ、それを具現化して現場で実践できるように取り組んでいる。	開設時に「大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらしを」を掲げ事務所に掲示している。管理者、職員が現場で実践できるように理念を共有している。	平成16年の開設以来の理念である。今の理念をベースにしてさらに地域に密着した施設を目指して職員とともに見直されることが望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属して。地域の行事(敬老会、体育祭どんと焼きなど)や地区清掃などに参加させていただき、交流を深めるように取り組んでいる。	理事長が地域の住民であり自治会に所属して積極的に地域行事に参加したり、協力医院のクリニックをお願いして認知症講座を開催するなど双方向の交流がなされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの受け入れ、ご家族様、地域の人たちをホームの行事に招くこと(夏祭りやクリスマス会)で認知症の方の理解を深められるように取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態、ホームでの取り組み、外部評価、実地指導等の結果報告及び説明を行い、意見をいただくように取り組んでいる。	年6回開催される運営推進会議には家族会代表、地域住民、地域包括支援センター、民生委員、法人の代表、管理者が出席して行事報告や利用者の様子など活発に意見交換されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	用事の際には、顔を出すように、そこで情報交換を行うようにしている。また、市から派遣されている介護相談員と連携を図るように取り組んでいる。	市の高齢福祉課へ月1回の訪問、介護相談員が月2回訪問して連携をはかり協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修の実施。事業所の理念の中に身体拘束の廃止を含めて実践している。日中は、玄関は出入り自由になっている。	玄関は見守りのためのセンサーはついていますが、夜間以外は開錠し、自由に出入りが出来るようになっている。外部研修、法人の研修では身体拘束の弊害を学び正しく理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部の研修に参加する中で、虐待の防止を図るようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見の制度を利用されている入居様がおられるため、制度等について内部研修を実施して、理解を深めようとしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の時には、管理者が説明を行い、疑問点を尋ねながら、懇切、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族会でのご家族様と入居者様との個別面談を月に1回実施している。	第二日曜日に家族会が月1回開催され、多い時には6, 7名の出席者が参加して食事会を行ったり施設の行事に参加している。会の後には管理者と個人面談を行い議事録を作り記録に残している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフミーティング、週1回の事業所連絡会などで意見を反映するようにしている。	月1回第一土曜日にスタッフミーティング、週1回法人の連絡会があり現状報告がなされている。ドクターを招いての医療に関する勉強会などを行い職員のレベルアップにつなげている。個人面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修や内部研修に参加してもらうことや介護福祉士の国家試験の情報等を提供することで職員のモチベーションの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修の実施。月1回のスタッフミーティングでの定例学習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連絡部会や外部研修に参加して、ネットワークや交流を図るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してから入居者様と個別面談、相談等を通して信頼関係を深めながら、サービス等を検討してしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してからも、面会や家族会などを通してご家族様との関係を深め、相談にのるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、相談を受け入れ、よく話を聞いた上で事業所の説明を行い、その他、必要なサービス等についての情報提供を行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは、出来る限り、入居者様と職員で協力して行うことを旨とし、互いに対等な関係を保てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事、外出の機会を通して、入居者様とご家族様と職員で支援をしている。また、当ホームに来所が困難なご家族様には末広通信やホームページを利用して必要な情報をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、入居者様がこれまで使用してきたものなどを引き続き使用していただくようにしている。また、入居者様の知人様の訪問も受け入れている。	入居前に行きつけの駅前のパン屋さん、喫茶店、家族とのお墓参り、実家への外泊、行きつけの美容院など利用者のこれまでの馴染みの人や場所を大切に途切れない支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内でお互いに役割を持っていただくことで、作業等を協力して行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、一度は、訪問して様子をうかがうようにしている。また、退去後もホームの行事などに、ご家族様にはお声をかけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当ホームでは、これまでの生活を基盤にして生活を継続出来るように支援をしている。	個浴での入浴時や1対1での散歩時などで一人ひとりの好みや要望、意向の把握に努めている。話の中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査票を基に、入居者様、ご家族様からの情報を収集して、入居者様の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、就寝に関しては希望に添えるように取り組んでいる。趣味を考慮したレクなどへの参加を呼び掛けている。また、役割も持ってもらえるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通して、入居者様、ご家族様、計画作成担当者、担当介護職員で話し合って作成している。	モニタリングとカンファレンスを繰り返して本人にとっての最善のケアのあり方を利用者、家族と話し合い、3ヶ月に1回介護計画の見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	内部研修を実施。記録の書き方の指導などを適宜行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、個別送迎などで、外出に出かけて、買い物などに行くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協のボランティアセンターを通してボランティアの方に来ていただき、交流を図り、楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は出来る限り、入居者様がこれまで通院されていた病院の主治医の下で受診できるようにご家族様の協力を得ながら、支援をしている。	かかりつけ医は利用者、家族の希望を尊重して、殆んどがこれまでのかかりつけ医で必要な医療受診をうけている。利用者の必要に応じて内科医は月2回、歯科医は週1回、整骨院は週3回の往診に来られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の診療所の医師、看護師に適宜相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の医師、看護師と連携を図りながら、必要な情報があれば提供するようにしている。また、退院の際は、入院中のご本人様については、退院に備えて情報を提供いただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、入居者様、ご家族様の思い、医師の見解を確認しながら、話し合い等により支援の方法を決定している。	前回、外部評価の課題であった「重度化や終末期に向けた方針」について、事業所が出来る事、出来ない事を明確にし「重度化した場合及び看取りにおける対応の指針」を作成し、今後、医療機関との連携を図り、可能な限り看取り介護の対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習とAED講習を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、いろいろなテーマでの避難訓練を実施。年2回、消防訓練を実施。（消防署には報告をしている。）	年2回の消防訓練を実施し他毎月、自主避難訓練を行っている。訓練の他に「想定外の事態をなくする」を防災目標の一つに掲げてガラスの飛散防止、スプリンクラーの誤作動対策、落下物防止等の見直しを徹底している。	「緊急連絡網」を作り、日頃から研修や訓練を重ねている。近隣の協力も得ている。今後は更に夫々の役割を明確にした協力体制の構築と是までの地道な訓練の継続を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は一人ずつ個浴で実施している。トイレ誘導、更衣等の際にも配慮をしている。	トイレ誘導では周りに目立たないよう声かけし、態度や言葉遣いについては本人の気持ちに沿ったケアを心がけている。利用者個々の介護計画などは事務所の鍵のかかる机の引き出しに適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様から時折、食事、おやつ、外出先などを聞いて、行事などの企画に反映をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者様のニーズを尊重するように心掛けているものの、希望に添えていない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ馴染のある美容院等へ行っていただけるように、ご家族様にお願いしている。洋服などは自分で選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時には、それぞれ役割を持って、調理、準備、片付けを職員と一緒に実施している。	朝と昼は調理済の給食が配達され、夕食は食材が届けられて利用者と職員と一緒に調理している。ご飯と汁物はホームで作り一緒に食事をしている。月1回は利用者の希望の食事を作る機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の記録の実施。水分を取りやすいようにお茶、ジュースなど種類を増やして提供している。栄養管理は、食材会社の栄養士の方がされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアの実施。週1回の歯科往診の実施。夜間は義歯を消毒実施。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレ誘導により、出来るだけ入居者が望まれる排泄の方法で出来るように配慮している。	毎日の排泄状況は「生活リズム表」に記入して、職員は利用者の排泄パターンを把握し共有している。排泄の自立に向けて、出来るだけ日中は布パンツで過ごせるよう個々に沿った排泄自立へ向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から散歩や外出などで体を動かしていただいたり、水分をしっかり取っていただくことで便秘の予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間については、朝から夕方までの時間帯の中で出来る限り入居者様の希望に添えるように取り組んでいる。	浴室は広く、3方向から介助の出来る浴槽で、週3回の入浴支援をしている。利用者は職員と1対1の個浴を楽しみ、ゆっくり寛いだ中で話が出来るので、いろんな情報も得られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、臥床、休息が必要であれば、随時、居室等で休んいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬を当ホームで預かり、職員がセットすることで、全職員が理解出来るように配慮している。また、事務所内に入居者様全員の薬の処方箋をファイルにしている。薬剤師による内部研修を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り入居者様が望まれるレクリエーション、外出、企画、行事を実施して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ入居者様の希望に添って、買い物、散歩、地域の行事等への参加など外出の機会を設けている。外出行事では、ご家族様のご協力を得て一緒に出かけるようにしている。	天気の良い日にはホーム内に閉じこもるのではなく利用者の体調を見ながら、近隣の公園、スーパーへ買い物、地域の行事の参加等季節に応じて、外出の機会を多く作っている。春秋には外出行事を利用者と話し合って家族も一緒に遠出を楽しく過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で入居者様の所持金を預かり、必要に応じて買い物などに出かけて使用していただくようにしている。使用された金額、残高をつけて管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いをご家族様や知人様に出されている。必要に応じて、事務所の電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節ごとの行事の写真の掲示や季節に応じた飾り付けなどで季節感を少しでも実感出来るように配慮している。	建物内部は安全が確保されて、気になる臭いや空気のよどみはない。玄関、廊下、リビング等の共用空間は広く明るい。天井も高く、ゆったりとした居心地のよい空間となっている。リビングの横に畳敷きの堀コタツを設えた和室があり、家庭的な配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに和室があり、なじみのある入居者様同士もしくは一人で過ごしていただく場としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、入居者様がこれまで使い慣れた品々を使用していただけるように配慮する。	各居室に洗面台の設置と天袋の付いた広い押入れがあり、使い慣れたソファ、タンス、仏壇、テレビ、椅子など持ち込まれ、それまで過ごした従来の生活の継続性が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす用のトイレ、浴室、廊下、居室のベッドに手すり等を設置。トイレ使用時のプレートを設置。		